

2 視察結果

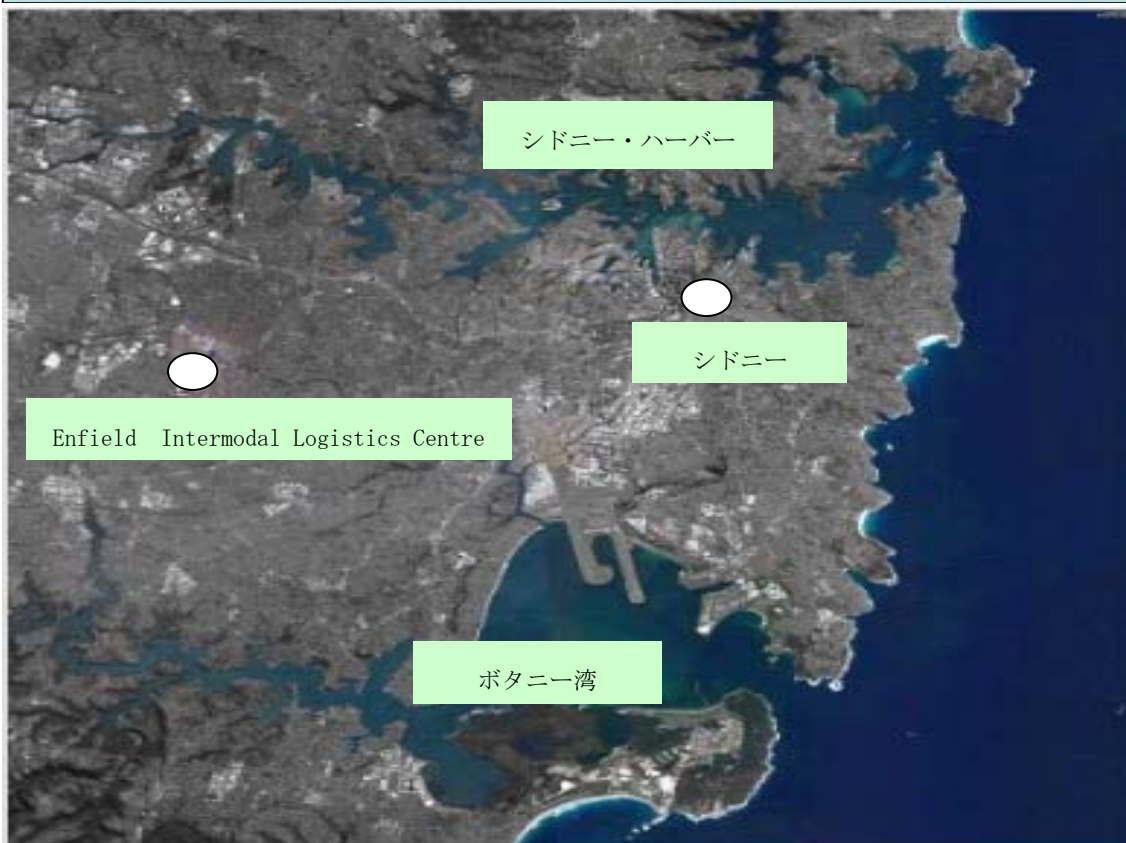
(1) シドニー港

訪問先：シドニー港湾会社《注釈 P. 24》、シドニー湾沿岸機構等

東京港は、首都圏 4 千万人という市場を背後に抱えており、産業活動や生活に必要な物資の流通を担うメインポートとしての役割を担っている。

シドニー港も同様に、後背地にニューサウスウェールズ州という大消費地を抱え、産業活動や生活に必要な物資の流通を担っている。そこで、シドニー港が、産業活動や市民生活に果たしている役割を調査した。

シドニー港（シドニー・ハーバー、ボタニー湾）の位置図



※ Enfield Intermodal Logistics Centre
P. 10参照

出典 Sydney Ports Corporation
<http://www.sydneyports.com.au>

①シドニー港の特徴

シドニー港には、シドニー・ハーバーとボタニー湾という2つの港がある。

天然の良港で、世界の三大美港のひとつであり、湾の入り口は1.5キロと広くはないが美しい海と豊富な緑に囲まれた海岸線が特徴の港である。

シドニー・ハーバーは、フェリーやクルーザーなどに多く使用されている。コンテナ物流が主流となる海運動向に対応して、1970年代からボタニー湾にコンテナターミナルを整備し、貿易拡大が図られてきた。

2008年7月から2009年6月のコンテナ貨物取扱量は178万TEU《注釈P.24》で前年比0.3%と横ばいである。

シドニー港からは、石炭、鉄鉱石などの資源や、小麦、牛肉などの食料品を出荷している。また、自動車、電気製品、家具など生活に関連した物資を入荷している。



シドニー港

シドニー港（シドニー・ハーバー）の位置図



SYDNEY HARBOUR PORT FACILITIES

AS AT 1 OCTOBER 2009

出典 Sydney Ports Corporation
<http://www.sydneyports.com.au>

シドニー港（ボタニー湾）の位置図



PORT BOTANY PORT FACILITIES

AS AT 1 OCTOBER 2009

出典 Sydney Ports Corporation
<http://www.sydneyports.com.au>



シドニー港湾会社

《資料》

■コンテナターミナル

P&O Port Botany Container Terminal

バース延長：約940m

最大水深：-14.8m

Patric Terminal

バース延長：約1,000m

最大水深：-14.9m

■その他主要なターミナル

◎ダーリング・ハーバー（シドニー港）

4つのバース（延長約950m）の商港

コンテナ、一般貨物、バルクに対応可能

◎バルク専用ターミナル（ボタニー湾）

液体バルク（石油・化学品）を扱う

◎客船ターミナル

都心近くにあり、対岸にシドニー・オペラハウス（世界遺産）が所在

②都市環境に配慮した港づくり

シドニー港は市の中心部から近距離にあり、環境問題が課題となっている。

シドニー市では、「サステイナブル・シドニー2030」（持続可能なシドニー2030）《注釈P.24》というビジョンのもとで、市内から港に至る散歩道や緑道の整備、住宅の低価格化や温室効果ガス排出の削減、自転車やバイクでの移動など、環境に配慮した都市づくりに取り組んでいる。そしてシドニー市だけではなく、州全体の開発を考えている。

シドニー港周辺は、港湾地区と業務地区、居住地区が近接しているが、バランスよく配置され、全体としてコンパクトにまとまっている。港湾地区は、世界遺産のシドニー・オペラハウスなどが立地し、観光の拠点にもなっており、にぎわいがある。市民は港に親しみを持っており、港は都市の利益を生み出す存在となっている。



シドニー港湾会社

③鉄道を利用した貨物の輸送

シドニー港と内陸部は道路と鉄道で結ばれている。2009年は約180万TEUのうち8割をトラックで、2割を鉄道で内陸部に輸送している。シドニー港では、将来、300万TEUのコンテナ貨物を扱おうと予想しており、そのうち4割は鉄道で内陸部に運ぶとの目標を立てている。

港から18kmの位置にあるシドニー市エンフィールドでは、広さが60ha、30万TEUのコンテナを蔵置できるロジスティクス・センター（Enfield Intermodal Logistics Centre P. 4シドニー港の位置図参照）の建設が2011年完成に向けて進められている。ボタニー湾とは貨物専用鉄道で結ばれる計画となっている。

鉄道輸送の充実強化に必要な施設整備や運営のコストは、州政府出資のシドニー港湾会社が負担している。州政府からの補助金など財政支援はなく、開発に当たっては、州政府や港運荷役会社等と調整しながら進めている。



シドニー湾沿岸機構

④港湾の経営手法

シドニー・ハーバー及びボタニー湾は、州政府出資のシドニー港湾会社が、埋め立てや岸壁整備などを担う。また、コンテナヤードの土地を船会社やターミナル運営会社に貸し付ける。船会社やターミナル運営会社は、荷役機器を整備し、荷役作業を行っている。

公設民営で、州政府としっかりタイアップをし、建造物の再構築、再開発をしながら、観光、産業の分野でも発展を続けている。

同社は、利益を上げられるビジネスを目指し、10年先、20年先を見通して、世界経済事情、船舶の大型化を考慮しつつ、過去の物流動向を詳細に分析し、将来の需給見通しを検証しながら港湾整備を進めている。



シドニー港湾会社

《参考1》シドニー市の概要

シドニー市はニューサウスウェールズ州の州都であり、国内では最大かつ最古(1788年から)の都市である。人口は約400万人で、国内の経済、物流、観光、交通、文化の中心であり、中でも国際観光都市として、2000年にはシドニー夏季オリンピックを開催した。

1788年にイギリス人が開拓し、最初はニュー・アルビオンと命名されたが、間もなくイギリスの政治家、トマス・タウンゼント(シドニー卿)にちなんでシドニーと呼ばれるようになった。1851年に最初のゴールドラッシュでシドニーの人口は急上昇し、急速な工業化とともに大都市に変わっていった。20世紀に入り、アジア、ヨーロッパの移民により人口も増加し、居住者の大多数は、イギリスやアイルランド系であった。近年はイタリア、フランス、ギリシャ、レバノン、およびアジア系が含まれている。





シドニー湾沿岸機構



シドニー湾沿岸機構

《参考2》 オーストラリアの概要

面積	769万2,024 km ² （日本の約20倍、アラスカを除く米とほぼ同じ）	
人口	約2,063万人（2006年4月）	
首都	キャンベラ（人口約32万人）	
民族	アングロサクソン系等欧州系人が中心	
言語	英語	
宗教	キリスト教（カトリック、英国国教会）68%、無宗教15% （2001年国政調査）	
略史	1770年	英国人探検家クックが現在のシドニー郊外、ボタニー湾に上陸、英国領有宣言。
	1788年	英国人フィリップ海軍大佐一行、シドニー湾付近に入植開始、初代総督に就任。
	1901年	豪州連邦成立（六つの英国植民地が憲法を制定。連邦制を採用）。（現在6州2特別地域）
	1942年	英国のウェストミンスター法受諾（英国議会から独立した立法機能取得）。
	1975年	連邦最高裁の英国枢密院への上訴権を放棄。
	1986年	オーストラリア法制定（州最高裁の上訴権を放棄する等英国からの司法上の完全独立を獲得）。
産業	不動産、流通、金融・保険、建設、通信	

<国旗>



<周辺概略図>



出典 外務省

<http://www.mofa.go.jp/mofaj>